

質疑及び一般質問

令和6年11月28日、29日、12月3日に開催された質疑及び一般質問では、次の議員が質問を行いました。各議員の質問の中から1問をピックアップし、その要旨を掲載します。

CHECK! 白熱議論を映像でご覧ください!

下の各議員の横にある二次元コードから、掲載の質疑及び一般質問の映像を見ることができます

11月28日(木)



井下 泰伸 自由民主党 (伊勢崎市)



▶ 県道桐生伊勢崎線バイパスについて

Q 次期県土整備プランの中心的事業に位置付けられている県道桐生伊勢崎線バイパスの整備効果と今後の進め方について伺いたい。

A 県土整備部長

市街地の円滑な交通を確保するため、伊勢崎市上諏訪町地内から国道462号の「鹿島町南」交差点までをバイパスとして結ぶ計画である。このバイパスの整備により、まちなかの賑わいの妨げになっている渋滞の緩和を図ることで、市が進める「良好な住環境とウォークアブルで賑わいのあるまちづくり」の実現に向けて大きく貢献できることから、早期の事業着手に向けて取り組んでまいりたい。

11月29日(金)



松本 隆志 自由民主党 (館林市)



▶ 中学校卒業後のひきこもり支援について

Q 中学校卒業後、学校から離れてひきこもり状態であることもが、支援につながっていない現状があると聞いている。県の支援について伺いたい。

A 生活こども部長

県では、子ども自らが望む進路を選択できるよう、相談支援事業を行っている。子どもが学校等から離れる前に支援につながることが重要であり、県内全ての中学校等に本事業への協力を通知した。加えて、福祉等の各支援機関がひきこもり状態の子どもがいることを認知したときには本事業を案内してもらうことも重要であるため、各支援機関への周知等を引き続き実施し、必要な方が必要な支援につながることを目指してまいりたい。

12月3日(火)



高井 俊一郎 自由民主党 (高崎市)



▶ 経済の好循環を実現するための政策について

Q 賃上げ・手取り増・消費・売上増という経済の好循環の流れを作るため、賃金の上げが重要であると考えているが、県の取組について伺いたい。

A 知事

国では最低賃金を「2020年代に全国平均1500円」へ引き上げる目標を掲げている。群馬県としても、経済界の方々の声に耳を傾けながら、最低賃金、実質賃金を上げるためにどのような戦略が必要なのか、改めて真剣に議論したい。「家計」への配慮はもちろん、「企業」の挑戦をしっかりと支えながら、賃金上昇から始まる経済の好循環の流れを確かなものにしていきたい。



栗野 好映 つる舞う (安中市)



▶ いわゆる「闇バイト」に関連する対策状況について

Q 首都圏を中心に連続発生している、いわゆる「闇バイト」に関連した犯罪について、現状及び県警察が取り組んでいる対策を伺いたい。

A 警察本部長

SNS上の情報に応募して特殊詐欺に加担した者を10月末現在で8人検挙した。また、SNS上の募集情報に対しては、個別警告を実施しているほか、学生ボランティアが発見した募集情報は、10月末現在で565件削除されている。中高生等には「情報モラル講習会」で注意喚起を、犯罪実行者グループに脅迫されている者に対しては警察が保護する旨を呼び掛けている。引き続き広報啓発を推進してまいりたい。



本郷 高明 リベラル群馬 (前橋市)



▶ 人生会議^(※)について

Q 人生会議について、県として普及・啓発をどのように進めているのか伺いたい。

A 健康福祉部長

人生会議の認知度は十分とは言えない状況にある。そのため、本県が作成した在宅医療・介護支援パンフレットや、動画やSNSを活用し周知啓発に取り組んでいる。また、医療や介護に携わる専門職を対象に研修会を開催し、延べ858人が受講した。今後も、本人や家族の意向がより尊重される医療やケアの実現を目指し、人生会議の普及・啓発を着実に進めてまいりたい。



薬丸 潔 公明党 (太田市)



▶ Gメッセ群馬の予約について

Q Gメッセ群馬を国家資格試験会場として利用するような公益性の高い利用については、優先的に予約受付すべきと思うがどうか。

A 戦略セールス局長

Gメッセ群馬は、公の施設として利用者の公平性を確保するため、施設の予約については、展示ホールや会議室ごとに、利用規約で定めている。国家試験や入学試験のように公益性を有し、確実に会場を確保しておく必要がある催事もあることから、指定管理者と連携して他施設の管理・運営方法を研究するなど、県有施設としての適正かつ円滑な管理・運営に努めてまいりたい。



川野辺 達也 自由民主党 (邑楽郡)



▶ 交通弱者の移動手段確保について

Q 運転免許を返納した高齢者などが安心して生活できる社会を実現していくことが重要であると考えているが、県の考え方や取組について伺いたい。

A DX推進監

県では地域内交通を担っている市町村に対して、限られた資源を有効に活用するため「地域公共交通計画」の策定を促している。市町村が既存の地域内交通を見直す際、デマンド式交通などの新たな移動手段の導入を検討する場合には、試験運行費用の一部を支援している。今後も、地域の多様な移動手段の確保を促し、誰もが安全で快適に移動できる社会の実現に向けて取組を進めてまいりたい。



今井 俊哉 自由民主党 (太田市)



▶ 農業振興にける知事の熱意について

Q 知事の役割として、現場を訪問し関係者を鼓舞するとともに、発信力を活かして産地・産品をPRすることを期待するが、農業振興にける熱意を伺いたい。

A 知事

農業は、群馬県が誇る魅力的なコンテンツである。これまでYouTubeやSNSを通じて、県が力を入れている有機農産物や「やよいひめ」等の県オリジナル品種の魅力がPRしてきた。こうした取組が県産農畜産物の消費拡大につながり、農業者への激励にもなればと考えている。これからも農業の生産現場に足を運び、実態を把握したうえで、農業者の思いや努力を受け止め、農業が持つ魅力を引き続き発信していきたい。



井田 泉 自由民主党 (佐波郡)



▶ コメ不足による価格上昇と今後のコメ生産への影響について

Q 今年の夏のコメ不足以降、価格上昇に伴い、主食用米の作付けが増えると聞く。生産量増加によるコメ余剰や米価の下落につながる懸念がある。県の今後の対応を伺いたい。

A 農政部長

群馬県では、急激な米価変動による農家経営への影響を最小限に抑えるため、行政やJAグループ等で構成する群馬県農業再生協議会が、主食用米生産量の目安を算定し、生産者に情報提供をしている。また、コメの生産過剰とならないよう、消費拡大も図りつつ、国の交付金を活用して加工用米や飼料用米、飼料イネ等の作付けを促し、関係機関とも連携して、需要に応じたコメ生産の推進に取り組んでいく。



松本 基志 自由民主党 (高崎市)



▶ 小児医療センター再整備と医療的ケア児等支援センターについて

Q 小児医療センター再整備の進捗状況と医療的ケア児等支援センターの小児医療センター内への設置について伺いたい。

A 病院局長

病床規模は、NICU(新生児集中治療室)とGCU(新生児回復室)の33床を42~45床に増やし、小児・新生児対応の機能を強化する。産科は18床を6~9床に減らし、群馬大学医学部附属病院に集約することで、県内全体での母体対応の機能を強化する。医療的ケア児等支援センターは、新病院の建物内に配置できるよう進めている。今年度末の再整備マスタープラン策定に向けて、関係機関との調整や院内での検討を進めていく。



斉藤 優 自由民主党 (伊勢崎市)



▶ 人口減少社会に対する知事の考え方について

Q 将来、人口減少を避けることが難しい現状において、どのように向き合っていくのか、知事の見解を伺いたい。

A 知事

群馬県に住みたい、子どもを育てたい、安全で暮らしやすい、そう思われる県にするため、ライフステージごとの支援策を強化し、全庁をあげて取り組む。地方移住の関心が高まる中、移住人口の増加策にも引き続き取り組む。また、デジタルクリエイティブ人材の育成などにより、他にはない価値を持ち、人を惹きつける求心力を持ちたい。攻めの姿勢で、さらに魅力的な県になっていくよう盛り上げていきたい。



星野 寛 自由民主党 (利根郡)



▶ (新)沼田高等学校開校に向けた準備状況について

Q 令和7年4月の(新)沼田高等学校開校に向けた準備状況について伺いたい。

A 教育長

統合後に共に学ぶことになる沼田高校、沼田女子高校の生徒・教職員が一体となって検討を重ね、生徒の考えや思いを取り入れて、準備を進めている。また、図書館と探究的学習スペースを融合した「メディアラーニングセンター」を配置した増築棟を現在整備中で、既存校舎教室棟1階部分の改修工事は、おおむね完了した。新高校が魅力あふれる地域の中核校となるよう全力で準備を進めたい。

※ 人生会議…もしものときに備え、自らが望む医療やケアについてあらかじめ考え、家庭や医療・介護関係者と話し合い、共有する取組